

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第27回】

#### 世代を超えたふれ合い交流活動

秋田市立川尻小学校校長 佐藤 弘

本校が位置する川尻地区は、藩内物流の大動脈であった雄物川と市内の中心部を貫流する旭川の合流点に接し、古くから栄えてきた地域です。

本校教育の柱として、地域・家庭・学校が一体となって子どもたちの健やかな育ちを支える絆づくりが挙げられます。子どもたちは、積極的に地域を学習の場として活動し、休日には進んで地域の行事に参加しています。地域の方は、ふるさと先生(※)や読み聞かせ、安全ボランティアとして、毎日のように学校に足を運んでくれています。

川尻放課後子ども教室は、コミュニティセンターとの複合施設として、本校に隣接する川尻児童センターで実施しており、毎日80人以上の子どもたちが利用しています。

複合施設の利点を活かすため、地域の方たちとの世代間交流が年間を通して日常的、計画的に行われています。年度初めに、地域の各種団体や退職校長、PTA、学校職員の代表からなる運営委員会が開催され、様々な体験活動や、交流活動が立案されます。

人気行事の一つ「もちつき大会」には200名以上の子どもたちが参加し、ふるさと先生からもちつきを教わり、できたてのおいしいもちと一緒に食べたりして交流を深めています。

また、コミュニティセンターのサークル活動の一つに車椅子ダンスがありますが、子どもたちが実際に車椅子に乗りながら、サークルの方たちから車椅子ダンスを学ぶこともあり、複合施設ならではの交流活動が行われています。

そのほか、学習アドバイザーの支援を受けながら自分のペースで学習する子どもや読書する子ども、ドッジボールで汗を流す子ども、進んで掃除をする子どもなど、様々な子どもたちの姿を見ることができます。

本校児童の放課後の活動は、地域の方たちとふれ合い、世代間の交流を深め合うことで、一層豊かなものになっています。

(※)ふるさと先生

地域の歴史やむかし遊び、野菜作り、俳句、科学・物理のおもちゃ作り、応急手当など、多種多様な総合学習を実施するため、川尻小学校で登録している地域ボランティアの名称。現在36名のふるさと先生が活躍中。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第124号に掲載）